

やります改革 ^{あした} 未来のために

持続可能な
地域を目指す
まちづくり

経済・社会・環境
のバランスが
とれたまちに

将来世代も
現役世代も
満足するまちに

1 子育て・教育環境の整備

- ・婚姻率と出生率の向上、子育て環境の整備
- ・子ども達がいきいきと輝く良好な教育環境の整備
- ・ひとり親家庭への支援強化



2 医療・福祉サービスの充実

- ・医療体制の充実と介護・福祉サービスの充実



3 農業、商工業の振興

- ・農業の担い手育成、生産基盤の整備
- ・6次産業化・農商工連携支援
- ・企業の積極的な誘致、地元企業への支援



4 安全で安心に暮らす

- ・地域防災力の向上や治水対策など、ソフト・ハード両面からの総合的な取り組み



5 行政改革

- ・自治体 DX を進め、公的サービスの利便性向上



福岡県議会議員候補

北島いちお

(66歳)

変えてみませんか

自由民主党公認 福岡県農政連推薦 くらうちいさお

くらうちいさおが目指す4つのきずな

1 人と動物と環境の絆 新型コロナに翻弄された3年間。子どもたちに持続可能な未来社会を約束するためにはワンヘルスの理念が求められます。それは「人と動物の健康」「環境の健全性」 両者は不可分、という考え方です。ワンヘルスの推進は感染症予防の備えとして重要です。

2 政党を越えた絆 市町村単位での視点は時に窮屈です。6年前の九州北部豪雨での日田彦山線寸断は絶望的でした。解決策は広域連携でしか見い出せませんでした。そして九州自立の会を基点に党派を越えた取り組み。県南全体の発展はこの手法でさらなる飛躍を目指します。

3 国と県と市町村の絆 筑後市はかつて福岡ソフトバンクホークスの誘致を勝ち取りました。その時の誘致活動は一つの市から地域への取り組みに拡大しました。まずは筑後七国。さらには周辺の自治体も参加し、県南地域へ。最後には国や県も巻き込みました。筑後市の名前は全国にとどろき、税収も得ています。

4 子どもと大人と老人の絆 筑後広域公園は交流をキーワードに筑後地域に初めてできた県営公園で、あらゆる世代と一緒に過ごせます。新幹線駅・九州芸文館・各種施設。そしてタマホームスタジアム。筑後広域公園の誕生と成長から得られたことは多種多様です。

くらうちの対策

物価高騰対策 学校給食費の保護者負担を軽減 ダンボールなど出荷資材高騰で農林漁業者を支援

コロナ対策 ワンヘルスの理念 ウイルスからの感染防止 体力の弱った中小企業・商店街・農業など支援

公共交通対策 J R九州の減便などに対する住民の足の確保 地域コミュニティバスへの手厚い助成

道路対策 筑後市を南北に貫く 209号線の渋滞緩和を 交差点改良や県道のバイパス化で早期実現

略歴 1953年 筑後市に生まれる。日本大学農獣医学科卒業。臨床獣医師、国会議員秘書を経て、1987年 福岡県議に初当選(9期連続)。2001年 福岡県議会議長。2013年 日本獣医師会 会長。2022年 アジア獣医師会連合会長。

趣味 ウォーキング 歩いた距離は地球一周半

